

平成29年度 共同機構研修会 第3回

平成29年7月10日(月)

(公社)京都市保育園連盟共催

## 乳幼児期に育てておきたいこと, 大事にしたいこと

講師 鈴木 眞廣 和光保育園園長(社会福祉法人わこう村)

保育所保育指針は平成2年度版から「子どもの主体性」ということを前面に出してきました。子どもの主体的に学び育つという姿を“環境”で支えるということ、つまり、物的環境と人的環境でどのように支えれば子どもが主体的に生きられるのかを考える保育所保育指針に変わり、今回の改定においても引き継がれています。先生が何々する人、子どもが何々される人という関係の中には、どうしても子どもの主体として生きる姿が見えません。これまでの保育では、大人は子どもにとって望ましい経験や活動を一方的に伝える役割を仕事として担い、子どもはそれに従い、付き合う形で向き合ってきたのではないかと思うのです。

私たちは、子どもの主体性を支える時、毎日の決まった生活リズムが繰り返される中、生活に見通しを持ち、自分で遊ぶ時間や場所を選び、子ども自身が遊びを切り上げようと思いつくなど、子どもが選べる環境を作ること大事にしてきました。そして、子どもが生活の中で興味関心を持ったことを、保育者と一緒に話し合いながらどうすればよいかを検討し、生活へ返すことが重要です。

私たちは先輩保育者から、子どもたちを引っ張ることや、子どもたちをまとめるのが上手な人が専門性の高い保育者と言われてきました。しかし、子どもは、自分の周囲で起こっていることから影響を受け、また周囲に影響を与えながら、自分で自分を育てています。自分が生きていることを喜びとしている存在なのです。保育者の専門性の転換として、このように主体的に生きようとしている子どもに対して、その子どもの表現している心の動きを理解しようとする人、その心を支え向き合える人、共に生きる人が専門性の高い保育者です。保育者も親も、子どもの心と響き合い、響き返せる大人でありたいと考えています。

講義の詳細は、要録ページをご覧ください。 [要録ページへ](#)

## 共同機構合同研修会案内

こどもみらい館 共同機構研修会  
京都市教育委員会保・幼・小・中連携推進事業

## 京都大原学院の挑戦 0歳から15歳の学び舎

～地域の子育てセンターとしての役割～

日時：平成30年 2月2日(金) 15時～17時

発表者

大原自治連合会

会長 田家 正雄

大原自治連合会

子育て支援専門委員会委員長 高倉 哲法

小規模保育施設小野山わらんべ

施設長 倉橋 祐美

つどいの広場びーちくばーちく

施設長 前田 明美

大原地域学童クラブ

施設長 飛田 光恵

京都大原学院(京都市立大原小中学校)

校長 石飛 聡

京都大原学院(京都市立大原小中学校)

教頭 岩田 智典

場所：京都市子育て支援総合センターこどもみらい館

京都大原学院の校区は京都市の中心部から北東へ15kmに位置し、市街化調整区域における、特別風致地区・歴史的風土保存地区を含んだ校区です。児童生徒数は年々減少しており、平成16年に少子化問題対策委員会が設置され、学校の存続をめぐる地域全体で協議しました。しかし、「地域には学校が必要」という強い思いから、小中一貫教育校として、平成21年4月に開校しました。その後、子育て支援活動センターつどいの広場「びーちくばーちく」、小規模保育施設「小野山わらんべ」、地域学童クラブが学校施設を利用し、共存することになりました。平成28年度より保幼小中連携推進事業の実践研究指定(2年間)を受け、これからの少子化の時代、学校を核とした地域づくり、地域の子育てセンターとしての学校の役割を考えていきます。

# 子どもの心の育ちに目を向けて、エピソードで保育を考えてみませんか

講師 大倉 得史 京都大学大学院准教授

心を育てることは目に見えにくく難しいことですが、心の有り様こそが子どもの育ちにおいて最も重要なことであり、それが充実するようにかかわる事が保育の基本です。そのためにはまず子どもの心を捉えなければなりません。エピソード記述は、どこにでもあるような何気ない日常の一コマを取り上げて、人と人との気持ちの交流、子どもと保育者の交流を詳細に描写するものです。そこにはその保育者がどのように子どもを育てているかがはっきりと現れます。そして、そのエピソードについてみんなで検討し合うことで、目に見えにくい心を育てる保育や、子どもの心の育ちを可視化していくことができます。

エピソード記述法の特徴は、「私」という一人称を主語にして書くという点です。普段から子どもに関わっているあなただからその心の変化を感じ、記述することができます。ですから、「私」の体験、「私」が身体で感じたことをしっかりと書き込んでください。そうすることによって、読み手の方も書き手の「私」の立ち位置に入り込んで場面を共有し、自分の実践に引き付けて考えていくことができます。また、実際に書いてみると書き手側にも得るものが大きく、保育を振り返れることや保育者同士で議論し合えることがエピソード記述法の非常にいい点です。

エピソード検討会では、今まで見えなかった領域への想像を膨らませ、子どもが生活している体験世界や、家庭生活と園での姿のつながり、その子の育ちの歴史、また保育者の対応が子どもの心にどのように響いているのかといったことに思いを馳せると、子どもの見方が懐の深いものになり、心の育ちへの洞察が深まります。これを園内研修に取り入れることでチームとしての保育観の摺り合わせをしていくこともできます。出されたエピソードについて「ここはダメ」などの評価をし合うのではなく、皆が意見を出し易い雰囲気を作り、子どもについて、保育者の対応について、多角的な見方を出し合ってほしいと思います。園で保育について話し合う風土を作ること、子どもの心の有り様に皆で想像力を広げること、保育観の深め合いをしていくことが、エピソード検討会の主目的です。

講義の詳細は、要録ページをご覧ください。 [要録ページへ](#)

## 第18回みらいっこまつりを開催します！

<テーマ> ~えがおで 心はぐくむ みらいっこ~

日時:平成29年12月8日(金),9日(土)10時~16時30分

場所:京都市子育て支援総合センター こどもみらい館

《共同機構団体からの楽しい催し》

「みらいっこわくわくコンサート」  
(公社)京都市私立幼稚園協会

「エアマットであそぼう」  
(公社)京都市保育園連盟

「みんな なかよし お楽しみ会」  
京都市立幼稚園長会

「赤ちゃんほっこりコーナー」  
京都市営保育所長会

今年も

お世話になります！

保育園(所)・幼稚園の  
保護者の方には是非ご紹介ください。  
また先生方も  
遊びにいらしてくださいね。



子どもを育む喜びを感じ、  
親も育ち学べる取組を  
進めます。  
「京都市はぐくみ憲章」より



この印刷物が不要  
になれば  
「雑がみ」として  
古紙回収等へ！



発行日 平成29年11月22日  
発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館  
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る楠町601-1  
Tel (075)254-5001 Fax (075)212-9909  
URL <http://www.kodomomirai.or.jp>